

(2) 区のまちづくり目標

ア 区のまちづくり目標総括シート

区ごとに、

「取組みの方向性」

「区の人口・世帯動向」

を示すとともに、「取組みの方向性」に掲げる目標の実現に向けた

「現状と課題」

「今後の取組みの方向性」

をまとめるもの。

※「今後の取組みの方向性」には検討段階のものが含まれる。

※7区で共通する課題など全市的課題については、分野別目標の51施策の「施策評価」で整理されているため、「区のまちづくりの目標」では、区ごとの特性や独自の取組みに関する課題に絞ってまとめている。

イ その他

令和元年度を「R1n」，令和元年を「R1」等と表記している。

歴史と自然の魅力にあふれ、人が活躍し、活力を創造するまち・東区 ～住みやすいあんしんなまちづくりをめざして～

取組み の 方向性	○安全で安心して暮らせるまち ○子どもが健やかに育つまち ○人を大切にし、みんながいいきと活躍できるまち ○新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち ○歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち
-----------------	---

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	総数
H12	東区	40,553 (15.2%)	192,002 (71.9%)	34,448 (12.9%)	269,307
H17		38,850 (14.3%)	190,269 (70.2%)	42,065 (15.5%)	274,481
H22		41,272 (14.3%)	197,419 (68.4%)	50,090 (17.3%)	292,199
H27		43,380 (14.3%)	196,831 (65.1%)	62,089 (20.5%)	306,015
R1	全市	44,532 (14.1%)	200,666 (63.7%)	69,934 (22.2%)	318,842
		203,722 (13.0%)	1,010,561 (64.7%)	348,417 (22.3%)	1,592,657
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	
H12	東区	6,124 (5.4%)	46,878 (41.0%)	114,366	*R1人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢 構成比算出にあたっては総数から 年齢不詳を除外。 （資料：国勢調査、福岡県人口移 動調査）
H17		8,125 (6.9%)	47,262 (40.1%)	117,887	
H22		10,653 (8.0%)	56,811 (42.7%)	133,024	
H27		13,590 (9.6%)	61,734 (43.6%)	141,506	
	全市	80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

安全で安心して暮らせるまち

現状と 課題	・地域防災については、避難訓練、土のうの計画的な整備を継続し、様々な災害に備えた地域の避難体制を構築する必要がある。災害時避難行動要支援者については、各校区の自治協議会、校区社会福祉協議会、民生委員・児童委員へ配付している避難行動要支援者名簿を活用した見守り活動や安否確認等が円滑に実施されるよう、地域を支援する必要がある。また、災害時の避難所運営について、自主防災組織の協力も得ながら運営を実施する仕組みづくりが必要である。 ・地域防犯については、地域の安全・安心マップの継続的な更新、多発しているニセ電話詐欺への対策として、警察や地域と連携した市民啓発等の取組みを引き続き推進する必要がある。交通安全や飲酒運転撲滅運動は、飲酒運転による交通事故発生件数がR1は9件（前年比-2件）と減少しているが、引き続き取組みが必要である。 ・セアカゴケグモの問い合わせや相談については定期的に続いており、出現場所は広範囲に拡大している。引き続きセアカゴケグモ等の定期的な調査・駆除及び市民への啓発に取り組む必要がある。
今後	・福岡市地域防災計画や避難行動要支援者名簿を活用し、様々な災害発生時における高齢者や障がい者等の避難支援体制構築や自主防災組織の協力を得ながら避難所運営を実施する仕組みづくりを促進する他、安全で快適な生活環境維持のための取組みを推進する。 ・地域における防犯活動を支援するとともに、飲酒運転撲滅運動等を地域と連携して推進する。また、放置自転車対策やごみの不適正排出の監視等モラル・マナーの向上にも取り組む。 ・交通ネットワーク整備や、歩行者・自転車利用者の安全を確保する環境整備を推進する。 ・セアカゴケグモについては、市民からの相談対応を実施するとともに、学校や地域における出前講座等による啓発を積極的に行う他、市管理地における定期的な調査・駆除に引き続き取り組む。

子どもが健やかに育つまち

現状と課題	・児童虐待ハイリスク家庭への対応について、家庭問題の複雑・多様化がみられるため、よりきめ細やかな対応が必要である。 ・子育てに不安のある保護者に対し、育児相談や家庭訪問・母子巡回健康相談等を行った。また、地域子育て支援会議を校区毎に実施し、地域の子育てネットワークづくりや、子育て交流サロン・育児サークルの支援を行うとともに、子育て教室や子どもプラザ等において子育て支援の取組みを行った。今後も子育て家庭が孤立しないよう、地域・行政でともに見守り支える取組みを推進していく必要がある。
今後	・「要保護児童支援地域協議会」の構成団体と密に連携して、ハイリスク家庭への支援、児童虐待の予防・早期発見・再発防止に向けて取り組む。 ・「東区子ども・子育てセーフティネットワーク」により、学校のスクールソーシャルワーカー、産婦人科、小児科、子ども食堂等と情報共有・連携を図り、より一層の児童虐待防止、子育て支援に取り組む。 ・妊娠期から切れ目なく支援できるよう、ライフステージに応じた関係機関との連携や、子育て交流サロン、育児サークル等での支援を行う。また、子どもが安心して遊べる環境づくりやスポーツ等の体験ができる機会を提供する。

人を大切にし、みんながいきいきと活躍できるまち

現状と課題	・地域コミュニティの活性化のため、自治協議会等の研修会、市民提案事業等への支援及び大学と連携し地域の課題等を調査・研究する事業等を行った。 ・地域活動に参加しない住民が多く、地域づくりの担い手が不足するとともに、固定化している中、地域の絆づくりがより一層必要となっている。 ・東区における外国人の人口は約 10,000 人と 7 区で最も多く、外国人居住者に対するサポート等「ユニバーサル都市・福岡」の実現を目指した取組みを推進する必要がある。 ・地域包括ケアシステムの推進のため、医療・介護・地域のネットワーク推進ブロック会議等を、R1n までに区内全域で実施した。地域包括ケアシステムを次のステップに進めるには、市民への啓発や医療・介護・地域のより有機的な連携を強化する必要がある。また、認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症に関する理解等地域の支援が必要である。 ・生涯にわたり元気で自立した生活を営むことができるよう、健康寿命を伸ばす取組みを推進する必要がある。
今後	・自治協議会等の地域活動や地域の担い手づくりを支援するとともに、企業、NPO、大学等様々な主体と、地域の未来を共に創る「共創」のまちづくりを推進する。 ・外国人と地域住民が共に暮らしやすい環境づくりに向け、情報発信の強化及び地域住民との交流促進等に取り組む。また、誰もが思いやりを持ち、みんながやさしい、みんなにやさしいユニバーサルデザインの理念に基づいたまちづくりを推進する。 ・高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域包括ケアシステム東区スタイルのさらなる充実を図る等地域で支え合う取組みへの支援を行う。また、「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」を推進するため、本人や家族の見守りや居場所づくり、認知症の早期発見・早期対応の体制づくりに取り組む。 ・健康寿命を伸ばすため、地域・各種機関・行政等が連携して、特定健診・特定保健指導の受診率向上に取り組むとともに、介護予防等の健康づくり活動を日常的に取り組む自主グループを更に増やす。

新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち

現状と課題	・香椎駅周辺土地区画整理事業（R2n 完了予定）が進む香椎駅周辺において、市民、地域、NP0、企業、行政で構成する「香椎賑わいづくりの会」を中心に、様々なイベント等を実施した。今後も界限性を活かした香椎駅周辺のまちづくりを地域等と共働で推進する必要がある。 ・九州大学箱崎キャンパス跡地等においても、地域、大学、企業、行政が連携してまちづくりを推進する必要がある。
今後	・香椎駅周辺は、市民、地域、企業、行政等が連携を図りながら、賑わいのあるまちづくりを推進する。 ・九州大学箱崎キャンパス跡地等において、グランドデザイン（2018年7月策定）に基づき、良好な市街地の形成と新たな都市機能の導入に向け、地域、大学、企業と連携しながら、未来に誇れるまちづくりに取り組んでいく。

歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち

現状と課題	・東区のシンボルとなる行事や歴史・文化的な資源、自然環境等の地域の魅力・特色を生かしたまちづくりを推進する必要がある。 ・立花山・三日月山については、登山人口の増加から登山道の保全や登山情報発信等のニーズが高まっている。また、行政と共働し、登山道の保全・整備を行うボランティア団体の高齢化等が課題となっている。 ・芸術文化を感じられるまちづくりのため、「第3回なみき芸術文化祭」を開催しており、なみきスクエアを核とした、芸術文化活動を推進する必要がある。
今後	・東区の魅力・特色を生かしたまちづくりを推進するため、地域によるまちづくりへの支援や、SNS等を活用した効果的な情報発信を行う。 ・「志賀島活性化構想2015」の推進のため、引き続き地域への支援を行う。 ・立花山・三日月山の登山情報の発信や、保全の担い手となるボランティアの支援・育成に取り組む。 ・「なみき芸術文化祭」の開催等なみきスクエアを核として、にぎわいにあふれ、多くの人が交流し、芸術文化を感じられるまちづくりを推進する。

お互いが支え合い、安心して人が暮らし、 歴史と伝統が息づくまち・博多区	
取組み の 方向性	○お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち ○安全で安心して暮らせるまち ○歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち

区の人口・世帯動向						
		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		総数
H12	博多区	22,249	(12.3%)	133,247	(73.8%)	24,958 (13.8%)
H17		22,015	(11.6%)	138,342	(73.1%)	28,898 (15.3%)
H22		21,276	(10.4%)	148,740	(72.8%)	34,371 (16.8%)
H27		21,491	(10.0%)	151,343	(70.4%)	42,134 (19.6%)
R1	全市	22,467	(9.8%)	160,854	(69.9%)	46,772 (20.3%)
		203,722	(13.0%)	1,010,561	(64.7%)	348,417 (22.3%)
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯
H12	博多区	6,794	(7.5%)	48,177	(53.1%)	90,776
H17		8,286	(8.4%)	54,166	(55.0%)	98,573
H22		11,512	(9.3%)	79,610	(64.2%)	124,070
H27		15,030	(10.8%)	92,551	(66.8%)	138,629
	全市	80,032	(10.5%)	379,499	(49.7%)	763,824

*R1人口は10.1時点の推計人口。
*総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。
(資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち	
現状と課題	・単身世帯の割合が指定都市で最も高い福岡市（H27 国調：49.7%）にあって、博多区は7区で最も高い（同：66.8%）。また、5年間の現住所居住率が46.7%（H27 国調）と転出入者が多く、共同住宅（マンションやアパートなど）に住む世帯割合が87.6%（H27 国調）と都市型の地域であり、地域コミュニティの希薄化が見受けられる。 ・高齢者が増加しており、特に単身高齢者世帯が急増している。（H22 国調：11,512人→H27 国調：15,030人 5年間で約30%増） ・超高齢社会の到来に備え、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるための体制（地域包括ケアシステム）づくりが求められている。 ・転入者が多く核家族化・少子化が進む環境の中で、育児不安を抱えている子育て世帯が増えており、安心して子育てができる環境づくりが求められている。 ・特定健診受診率が7区で最も低く（R1n 速報値：博多区 21.7%、福岡市 25.7%）、医療機関や地域住民と連携した受診率向上や生活習慣病予防・重症化予防による健康寿命の延伸が求められている。
今後	・地域の特色を生かした魅力ある地域づくりを支援するため、企業や団体、学校等との「共創によるコミュニティづくり」を推進し、併せて、住民同士の交流促進や、自治意識の醸成を図る。 ・高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるための体制（地域包括ケアシステム）の構築を目指し、医療と介護の連携強化を図るとともに、地域において住民による支え合い助け合いの仕組みづくりを推進する。 ・子育てに関する相談・支援体制を強化し、児童虐待防止の取組みを進める。また、子育て支援コンシェルジュ等の活用により情報収集に努め、タイムリーに情報提供を行うことで保育施設等の待機児童の解消を図る。 ・がん検診等の若い世代からの健康づくりや、生活習慣病重症化予防の取組みを推進する。

安全で安心して暮らせるまち

現状と課題	・校区（地区）防災組織においては、地域防災に対する意識や自主的な活動の広がりも見えてきているが、地域によってその内容に濃淡があり、地域の実情に応じた支援をしていく必要がある。また、公助には限界があるため、自助、共助の要となる自主防災組織の活動を推進する支援を更に深め、大規模災害に備えた体制づくりが急務となっている。 ・交通事故発生件数及び犯罪認知件数は7区で最も多くなっており、事故や犯罪が少ない安全なまちづくりが求められる。また、悪質な客引きの増加により博多駅筑紫口周辺の治安悪化が懸念されている。 *交通事故発生件数(R1)：1,764件（前年比280件減） *犯罪認知件数(R1)：3,435件（前年比130件増） ・自転車の放置台数が7区で最も多く、特に博多駅周辺や中洲地区に多く見られる。 *自転車の放置率(R1.10)：2.3%（前年同月比0.3ポイント減） ・官民連携により博多駅筑紫口地下に約600台収容の大型駐輪場を整備し、R1.9に供用開始している。これに伴い、路上駐輪場の廃止・撤去、放置自転車対策を推進し、安全で快適な歩行者通行空間の確保に取り組んでいる。 ・生活道路について、損傷が激しい箇所数は7区で最多となっており、博多区に約4割が集中していることから、計画的な維持修繕が必要である。
今後	・地域防災については、地域の実情に応じた防災研修・訓練等を校区（地区）や町内会を対象に博多消防署と連携し実施する。また、大規模災害に備えた体制づくりについては、年度の早い時期に避難所運営訓練や要支援者名簿の配布などを行い、地域と連携した対策を実施していく。 ・博多警察署、市民局と連携し地域の防犯リーダーに対する防犯研修会、防犯教室の開催、交通安全教室の開催や地域への物資支援、情報提供など地域の防犯活動の支援、交通安全思想の普及を行う。 ・市民局、地域関係団体と連携し悪質な客引きを許さないための地域づくりに取り組む機運を醸成する。 ・路面シート（自転車放置禁止区域）の貼付、歩行空間や交通安全施設の整備など、安全で快適な生活基盤の整備を実施する。 ・博多駅周辺や中洲地区において自転車利用者への指導・啓発や放置自転車の即日撤去により、放置自転車を減少させる。また、既設駐輪場の利便性向上や新たな駐輪場の整備を進める。 ・「福岡市生活道路アセットマネジメント基本方針」（H26.3策定）に基づき、道路施設の点検・修繕を計画的に行うことで、施設の延命化を図るとともに、費用対効果の高い施設の維持・管理に取り組む。

歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち

現状と課題	・寺社や名所旧跡、伝統ある祭り、伝統工芸など優れた歴史文化資源が多数存在する博多旧市街エリアにおいて、これらを生かした事業に取組み、その魅力を大きく高めてきた。また、九州新幹線全線開通以降、H28のKITTE博多、JRJP博多ビルに至る一連の再開発や、エリアマネジメント団体による賑わいの創出などにより、来訪者が大きく増加している。今後も、地域と連携し、回遊性の向上や歴史文化資源の魅力の発信力強化を図っていく必要がある。 *R1n 博多ガイドの会案内人数 定年ガイド5,244人、派遣ガイド926人、地域密着型企画ガイド1,132人 *博多旧市街ライトアップウォーク延べ入場者数の推移 H25：91,101人、H26：124,521人、H27：116,214人、H28：113,610人 H29：120,724人、H30：124,853人、R1：97,691人
今後	・歴史や伝統文化を生かした博多旧市街ライトアップウォークの開催や、歴史的景観と調和の取れた道路整備など博多旧市街プロジェクトを推進し、集客力の向上や回遊性の向上を図る。 ・博多ガイドの会によるまち歩き事業の充実や、博多の情報発信を行うなど、地域・企業・行政が連携し魅力の向上や地域の活性化に取り組む。

人が集い、人が輝き、人がやさしいまち「中央区」 ～にぎわい・元気・安心がつながるまちをめざして～	
取組み の 方向性	○自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち ○思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち ○誰もが安心して暮らせるまち

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数	
H12	中央区	16,380（10.9%）		115,013（76.2%）		19,478（12.9%）		151,602	
H17		17,043（10.5%）		122,962（75.4%）		22,974（14.1%）		167,100	
H22		17,562（10.1%）		127,849（73.8%）		27,724（16.0%）		178,429	
H27		19,531（10.5%）		133,279（71.5%）		33,581（18.0%）		192,688	
R1		20,276（10.4%）		137,082（70.2%）		37,812（19.4%）		201,440	
	全市	203,722（13.0%）		1,010,561（64.7%）		348,417（22.3%）		1,592,657	
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯		*R1人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 （資料：国勢調査、福岡県人口移動調査）	
H12	中央区	5,683（6.9%）		47,521（57.6%）		82,522			
H17		6,848（7.4%）		54,284（59.0%）		91,929			
H22		9,473（8.9%）		67,499（63.2%）		106,825			
H27		11,893（10.2%）		73,677（63.5%）		116,063			
	全市	80,032（10.5%）		379,499（49.7%）		763,824			

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち

現状と課題	- 福岡市における入込観光客数は、H23(1,678万人)からH30(2,141万人)の7年間で463万人増加しているが、そのうち約61%は日帰り客であるため、都心部の魅力を生かした回遊性の向上を図る必要がある。また、エリアマネジメント団体や地域と共働でまちのにぎわい創出や魅力向上を図っているところであるが、特に天神エリアにおいては、天神ビッグバンによる商業施設等の閉鎖により、これまでのにぎわいなくなることが懸念されていることから、さらなるにぎわいづくりなどの取り組みが必要になる。 - 地域のまちづくりを継続支援し、地域の特性を活かした回遊性の向上に向けた更なる取り組みが必要である。 - セントラルパーク基本計画を踏まえ、福岡城跡や鴻臚館跡等の歴史・文化資源について、観光資源としての魅力を向上させる必要がある。
今後	「We Love 天神協議会」と連携し、天神ビッグバンの持続的なにぎわい創出に向けイベントの連携強化や日常的なにぎわい拡充を図る。 - 地域のまちづくり団体等の回遊性向上の取り組み等を継続して支援し、地域の個性を活かしたまちづくりを進めていく。 - 福岡城跡や鴻臚館跡等の魅力を観光資源として活用し、福岡城さくらまつり、福岡城・鴻臚館まつりの充実を図るとともに、スマートフォン等を活用して幅広い層の地域住民や来街者に歴史・文化資源の魅力をPRしていく。

思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち

現状と課題	・転出入者が多く、地域活動の担い手が不足・固定化の傾向が見られる。 ・区の高齢化率は約 19.2%（R1.12）であり、高齢者単独世帯は 10.2%（H27）となっており、上記「区の人口・世帯動向」からも増加傾向にあるため、高齢者等を地域で支える仕組みの構築が急務であり、健康維持や日常からの支援体制の確立が必要となっている。 ・転出入者が多く、孤立しがちな子育て家庭の負担感・不安感の解消を図るために、地域での子どもの見守りを充実させ、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりが必要である。
今後	・公民館じょいんとプロジェクト（公民館とNPO等が共働で実施する事業）や公民館フェスタ、企業や専門学校等の地域活動への参加促進、地域デビュー応援事業等により、顔の見える関係づくりを進めるとともに、新たな担い手の発掘を支援する。 ・住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供されるシステムづくりを推進する。 ・健康に対する啓発活動の実施とともに、介護予防の拠点づくり事業（よかトレ実践ステーション創出）のさらなる推進を図る。 ・母子何でも相談、安心子育て応援セミナー等の実施や子育て応援ホームページによる適切な情報発信により、子育て支援の充実を図る。

誰もが安心して暮らせるまち

現状と課題	・警固断層の大規模地震や集中豪雨等大災害において、災害弱者への安否確認や避難行動支援を行うためには、地域による災害弱者への日頃の見守り活動の充実を図ることで孤立化を防ぎ、誰もが安心して暮らせる共助のまちづくりを推進する必要がある。 ・自身や家族を守る「自助」をテーマに、防災訓練や防犯啓発等地域が主体となり取り組んでいるが、参加は高齢者が中心となっており、安全安心への関心が低い世代の意識の高揚や活動への参加促進の取り組みが必要である。 ・放置自転車対策として日曜・祝日や 19 時以降の撤去についても実施しているが、対策の手を緩めると直ぐに放置自転車が増加する傾向にあり、引き続き撤去を実施していく必要がある。 ・食中毒の危険性がある食品の喫食や美容施術のトラブルが見られ、消費者側に正しい知識が十分に浸透していない状況にあるため、啓発に取り組む必要がある。
今後	・共助のまちづくりを推進するため、災害時避難行動要支援者名簿を活用した、地域による見守りマップの作成や個別計画書策定への支援等を行い、日頃の見守り活動の充実を図る。また、地域と学校の連携による避難所開設・運営訓練の支援を実施する。 ・地域、企業、警察、消防、区役所等が連携し、災害に強く犯罪のない安全安心のまちづくりを推進する。40の団体が参加し実施する体験型イベント「中央区安全・安心フェスタ」においては、防災、防犯への関心が低い世代を対象に「自助」を啓発していく。 ・道路利用者の安全で快適な通行空間を確保するため、放置自転車対策を継続して実施していくとともに、放置自転車対策業務の包括的民間委託など、より効果的、効率的な業務手法について検討を行い、人と自転車が共生できるまちづくりを推進していく。 ・食と美容の安全・安心プロモーションを活用した市民啓発を推進していく。

いきいき南区　くらしのまち ～身近な自然とふれあい　みんながつながり支え合う～	
取組み の 方向性	○人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合うくらしやすいまち ○みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち ○那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられる うるおいとやすらぎのあるまち ○大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数	
H12	南区	35,937	(14.8%)	174,163	(71.7%)	32,830	(13.5%)	243,039	
H17		34,007	(13.8%)	173,480	(70.6%)	38,204	(15.5%)	246,367	
H22		33,528	(13.6%)	167,308	(68.0%)	45,186	(18.4%)	247,096	
H27		34,626	(13.7%)	163,562	(64.5%)	55,430	(21.9%)	255,797	
R1		35,878	(13.7%)	164,575	(62.9%)	61,157	(23.4%)	263,782	
	全市	203,722	(13.0%)	1,010,561	(64.7%)	348,417	(22.3%)	1,592,657	
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯		*R1人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)	
H12	南区	6,613	(6.3%)	42,016	(40.0%)	104,999			
H17		7,514	(6.9%)	43,813	(40.3%)	108,734			
H22		9,892	(8.8%)	46,220	(41.2%)	112,306			
H27		13,798	(11.5%)	51,553	(43.1%)	119,487			
	全市	80,032	(10.5%)	379,499	(49.7%)	763,824			

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合うくらしやすいまち	
現状と課題	・少子化の中で、母親が子育てに不安・負担を感じて孤立化することがないよう、安心して生み育てられるための施策や、子どもが健やかに育つための施策が求められている。 ・南区は、25校区中18校区が高齢化率20%を超え、うち5校区が30%以上となっており、高齢者単独世帯数の割合が11.5%（H27）と7区中最も高い。高齢者が心身ともに健康で社会と繋がりを持って暮らせるよう支援する施策がますます重要である。 ・高齢者がいつまでも住み慣れた地域で暮らしていけるよう、医療や介護、生活支援などが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が重要である。 ・地域活動の担い手不足が顕在化しており、地域のネットワークや多様な主体が持つ資源を、地域課題の解決や地域の活性化につなげる共助の取組みが必要となっている。
今後	・新米ママ向けの親子セミナー等や、発達が気になる子どもと親が集えるサロンの開設など、育児不安を軽減し、孤立化や虐待を予防するとともに、子育て情報の提供や、子どもの正しい生活リズムの普及啓発などに取り組む。 ・健康寿命の延伸に向け、民間の事業所や企業との協働や、住民の主体性を活かした「よかトレ実践ステーションの創出」などの健康づくり・介護予防の取組みを進める。また、高齢者の見守りなど生活支援の充実や、在宅医療の推進、認知症に係る施策に取り組む。 ・地域活動の担い手や集う場の不足、移動手段等の課題解決のため、地域と医療・介護事業所等のネットワークが連携した取組みを進める。 ・地域における具体的な課題の把握に努めるとともに、企業や大学が持つ、人・モノ・専門知識等の資源を活かし、地域課題の解決や地域活性化につなげる。

みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち

現状と課題	・南区居住者の約 23%が 65 歳以上の高齢者であり、外国人もこの 10 年間で約 2.1 倍に増えているため、災害時における支援の仕組み構築が課題である。 ・南区では、刑法犯認知件数（H30 中 1,628 件 → R1 中 1,561 件）は年々減少しているものの、犯罪の少なさに満足している住民の割合は H30n 34.5% → R1n 40.5%（令和元年度市政に関する意識調査:行政区別(南区)）にとどまっており、より一層の地域防犯力の向上が求められている。また、R1 中の自転車による交通事故発生件数は 311 件（南区）で県下ワースト 3 位となっており、自転車を中心とした交通安全啓発活動が急務である。 ・H30.12 に入管法が改正され、居住外国人のさらなる増加が見込まれるなか、地域住民と居住外国人の相互理解がまだまだ進んでおらず、早急な対策が必要である。
今後	・災害時における高齢者や外国人などの要配慮者の安全確保のため、地域と共働で防災意識の醸成、組織や従事者の育成、訓練などに取り組む。また、ワークショップやセミナーなどを通じて先進的な地域の取組み事例を紹介し、校区間の情報共有を図り、全体の意識向上につなげる。また、外国人や高校生などを、災害時に支える側の人材として育成する。 ・警察などとさらなる連携強化を図り、地域ニーズに合わせた地域防犯活動の支援や、防犯パトロール、性犯罪防止活動、交通安全運動などの啓発活動に取り組む。 ・日本語学校等の留学生等を対象に、生活面にかかわる「ごみの分別」「自転車の交通マナー」についての出前講座実施のほか、「税」に関する広報活動などを行うとともに、地域住民と居住外国人の相互理解を深める交流事業を実施する。

那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられるうるおいとやすらぎのあるまち

現状と課題	・住民に水辺や緑などの自然の魅力を発信することで、自然環境の豊かさと地域の魅力を身近に感じてもらうことが重要である。
今後	・区の魅力スポットを紹介したマップを配布することで身近な自然を発信するとともに、鴻巣山でのワークショップを実施し自然に触れる機会を創出する。

大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

現状と課題	・区及び周辺部の 7 つの大学と包括連携協定（H28.12）を締結し、合同イベントとして「南区こども大学」を H29n から実施している。また、大学の先生が地域に出向いて行う「南区出前講座(大学版)」を、H16 から実施している。今後、大学と地域の交流・連携事業を推進することが必要である。（R1：8 件） ＊「南区こども大学 2019」（19 講座実施、来場者数 548 人） ＊「南区出前講座(大学版)」（42 講座実施、参加者数 1,008 人） ・西鉄天神大牟田線から遠い区西南部地域では、公共交通の利便性向上など、地域の活性化に向けた取組みが求められている。
今後	・「南区こども大学」や「南区出前講座(大学版)」などの実施により、地域に開かれた魅力ある大学づくりを進めるとともに、大学・学生による積極的な地域活動参画及び連携を推進するよう支援し、大学を活かした共創のまちづくりを推進する。 ・地域拠点である長住・花畑地域を含む区の西部・南部地域を中心としたバス交通の円滑化を図るため、既存バス路線における交差点改良やバスカットの整備に取り組み、地域の現状や課題、ニーズ等を整理し、地域特性に応じた活性化策について検討する。

豊かな暮らしがあるまち・城南区 ～大学・自然と共生し、地域で支え合う安全で安心なまちづくり～	
取組みの方向性	○安全で安心して暮らせるまち ○地域で支え合う、ぬくもりのあるまち ○地域と大学が共生するまち ○自然環境を大切にするまち

区の人口・世帯動向							
		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）	
H12	城南区	16,704	(13.3%)	92,827	(73.8%)	16,212	(12.9%)
H17		16,281	(12.7%)	92,145	(72.0%)	19,483	(15.2%)
H22		16,495	(12.9%)	88,231	(69.1%)	22,940	(18.0%)
H27		16,837	(13.0%)	84,258	(65.2%)	28,215	(21.8%)
R1		16,781	(12.8%)	82,421	(63.0%)	31,688	(24.2%)
	全市	203,722	(13.0%)	1,010,561	(64.7%)	348,417	(22.3%)
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯	*R1人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H12	城南区	3,381	(5.7%)	28,349	(47.9%)	59,194	
H17		4,132	(6.8%)	28,615	(47.2%)	60,655	
H22		5,275	(8.5%)	29,678	(47.7%)	62,189	
H27		7,206	(11.2%)	31,533	(48.9%)	64,511	
	全市	80,032	(10.5%)	379,499	(49.7%)	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

安全で安心して暮らせるまち	
現状と課題	・全国的に豪雨災害が多発していることから、地域自主防災組織の災害対策に係る意識は依然として高いが、避難所開設時における避難状況を見ると、一部の住民への災害に対する危機意識の浸透がまだ十分とは言えないと思われる。 ・避難所の開設・運営については、地域・行政・施設管理者の三者共働による運営体制の確立に向けて、今後も引き続き三者の連携を進めていく必要がある。 ・城南区における刑法犯認知件数は年々減少傾向にあり、5年前と比べ半数以下となっている。しかしながら、近年は高齢者を狙ったニセ電話詐欺が増えており、区職員を騙る事案も発生していることから、これらの新たな犯罪に対する取組みを強化していく必要がある。 ・核家族化、都市化等から身近に支援者がいない家庭が増加しており、夫婦が協力して育児を行うことは大変重要である。父親が子育てに積極的に取り組み、男女差による違いを認識した夫婦コミュニケーションを大切にすることで、母親のストレスや育児負担感の軽減を図り、育児不安や児童虐待の未然防止を図ることが期待できる。
今後	・災害が発生し避難所を開設する場合には、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、感染症対策に万全を期するよう努める。 ・地域の防災訓練を実施する際には、訓練内容の充実を図るため、R1nに構築した「防災士ネットワーク」を活用してもらうよう地域に働きかけを行うとともに、家庭でできる備蓄の推進など防災意識の啓発を行う。 ・地域・行政・施設管理者が参加する避難所開設訓練の内容を充実させることにより、当該三者の連携強化を図る。 ・特別定額給付金を装った詐欺など、高齢者を対象としたニセ電話詐欺に関する注意喚起や、地域における防犯パトロール活動の支援、防犯強化月間における街頭キャンペーンの実施などを通じて、犯罪のない安全で住みよいまちづくりの実現に向けた取組みを推進する。 ・新型コロナウイルスの影響によりDVや児童虐待などの家庭内の問題が深刻化しており、より一層、夫婦コミュニケーションが重要になっている。父親の育児参加や夫婦コミュニケーションの大切さを啓発するリーフレットを作成し、母子健康手帳発行時に全妊婦に配付する。

地域で支え合う、ぬくもりのあるまち

現状と課題	・城南区では全市平均を上回る高齢化の進展により独居や認知症の方も多く、高齢になっても住み慣れたまちで安心して住み続けられるように、地域で支え合うまちづくりが必要である。
今後	・「With コロナ時代」の超高齢化社会に対応するため、新しい生活様式を踏まえつつ、地域活動を担う人材の育成支援、地域の見守りネットワークの強化など、地域で支え合うまちづくりを推進する。 ・各種地域ケア会議を開催し、地域と専門職の繋がりや支援体制の構築を推進する。また、多職種連携研修会を医師会共催で開催し、医療と介護の連携体制を強化する。 ・認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できるように、認知症の方やその家族に早期に関わる認知症初期集中支援チームの活動を推進していく。 ・市が推奨する高齢者の健康づくり・介護予防に効果的な運動「よかトレ」を、継続して実践する団体を「よかトレ実践ステーション」として認定し活動を支援するとともに、より多くの高齢者が身近な場所で取り組むことができるよう創出支援を行う。 ・特定健診の受診率向上を図るとともに、健診結果に応じた保健指導を実施し、生活習慣の改善や重症化予防を目指す。

地域と大学が共生するまち

現状と課題	・区内にある福岡大学、中村学園大学の学生数約２万４千人は、区人口の約２割に相当し、若い学生の活力は地域に活気をもたらしている。大学の高度な教育研究機能や設備、専門的知識を持つ人材などの資源を地域課題の解決に生かす取り組みが必要である。
今後	・「With コロナ時代」の新しい生活様式を踏まえた、区役所と大学の連携や住民と学生の交流を促進するとともに、地域における活動団体等も含めたネットワークを維持し、多様な主体が地域課題に取り組む共創によるまちづくりを推進する。

自然環境を大切にするまち

現状と課題	・区域を貫流する樋井川、区域の南部に位置する油山など、市民自らが自然環境を守り育てる活動を支援し、住みやすい環境づくりに生かすことが必要である。
今後	・樋井川や油山の地域活動団体等と連携し、身近な自然の良さをPRするなど、区民の環境保全意識の向上を図り、自然環境を大切にするまちづくりを推進する。

ひと・みず・みどりが光り輝く「早良区」 ふれあいと交流のあるまち

取組
の
方向性

- お互いが支え合い安心して暮らせるまち
- 早良区の特性を生かした魅力あるまち
- 地域の魅力を生かしたまち
 - ◆～活力とにぎわいのあるまち～ 北部
 - ◆～地域の新しい拠点となるまち～ 中部
 - ◆～豊かな自然を生かした市民の憩いのまち～ 南部

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数
H12	早良区	32,337	(15.9%)	145,141	(71.5%)	25,570	(12.6%)	203,656
H17		31,417	(15.0%)	145,996	(69.8%)	31,730	(15.2%)	209,570
H22		31,510	(14.9%)	142,113	(67.4%)	37,234	(17.7%)	211,553
H27		32,653	(15.1%)	137,689	(63.6%)	46,110	(21.3%)	217,877
R1		32,793	(15.0%)	134,469	(61.5%)	51,376	(23.5%)	220,049
	全市	203,722	(13.0%)	1,010,561	(64.7%)	348,417	(22.3%)	1,592,657
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯		*R1人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H12	早良区	4,687	(5.8%)	26,881	(33.0%)	81,425		
H17		6,181	(7.1%)	30,195	(34.9%)	86,621		
H22		7,467	(8.3%)	32,128	(35.6%)	90,134		
H27		10,299	(10.8%)	36,104	(37.8%)	95,617		
	全市	80,032	(10.5%)	379,499	(49.7%)	763,824		

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

お互いが支え合い安心して暮らせるまち

現状と
課題

- ・熊本地震や平成 30 年 7 月豪雨の教訓から、災害時避難行動要支援者への支援や、各校区における避難所運営など、より実践的な対応が求められている。R1n は 6 月から災害時避難行動要支援者名簿の更新を行い、12 校区で避難所運営訓練を実施した。
- ・核家族化、地域コミュニティにおける、住民同士のつながりの希薄化などの社会状況の変化により、地域において子育て家庭が孤立化、さらには感染症の拡大防止のための閉鎖的な生活を余儀なくされている現状がある。子育てへの不安感を軽減し、児童虐待、発達障がいなど、支援を要する子どもや家庭をめぐる問題に対応する必要がある。
- ・保健所窓口での母子健康手帳の交付、妊婦との面接を行う中で把握した支援が必要な妊婦について、子育て世代包括支援センターの関係課が連携協力しながら、さらなる支援の充実に努めていく必要がある。
- ・健康社会の実現に向け、市民の主体的な健康づくりを進めていく必要がある。
- ・健康づくりに役立つレシピを公募し作成した「サザエさん通り食育レシピ集」を有効に活用し、食育を推進していく必要がある。
- ・早良区の R1n 特定健診受診率は、28.0%と伸び率が頭打ちとなり(前年度 28.7%)、国が設定した目標値(60%)にも届いていない。受診率向上の啓発活動を強化する必要があるが、新型コロナウイルス感染症の現状も考慮する必要がある。
- ・高齢者人口の急速な増加に備え、地域包括ケアの推進が必要である。地域包括ケアに取り組む気運の醸成のため、公民館・地域と専門職の共創による「介護は突然やってくる！親子で考える介護の備え講座」を H29n から R1n の 3 年間で早良区内の全公民館で開催し、また、「早良いきいきサミット」を 3 回開催した。地域包括ケアシステムにおける公民館、地域の役割の認識は進展しているが、市民に向けた更なる介護予防や在宅医療・介護に関する普及啓発が求められている。
- ・「人生 100 年時代」の到来を見据えて、定年退職後に必要な情報提供を行うとともに、地域活動に参加しやすいきっかけづくりにより、地域活動の担い手不足解消などへつなげていくことが求められている。

今後	・災害時の要支援者への働きかけや名簿の整備及び実践的かつ子育て世帯や女性の視点等に着目した避難所運営などの研修及び訓練を各校区で開催する。 ・発達が気になる子どもと、その保護者のための子育てサロン「もちもち」の開催や、子育て情報誌・子育て情報マップの配布、「さわらっ子育て応援ホームページ」での情報発信などにより、子育て世代の不安を軽減するとともに、子育てを応援する。また、児童虐待防止の研修や、子どもが様々な暴力から自分の心とからだを守る「子どもへの暴力防止プログラム（CAP）」を実施し、児童虐待防止のための啓発を行う。 ・子育て世代包括支援センター関係各課の連携をより強固に行い、妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目のない支援の充実を図る。また感染症拡大防止のため母子事業が休止の期間、各家庭への支援機会が減少、再開後の実施・支援体制を強化していく。 ・早良区南部地域の自然や食の魅力と医療・介護ネットワーク等を活用したツーリズムを企画・実施し、早良区南部地域の魅力発信と市民の主体的な健康づくりの機運醸成を図る。 ・「サザエさん通り食育レシピ集」のメニューを飲食店で提供してもらうことにより食育に関する認知度を高め、より効果的に食育を推進していく。 ・特定健診の受診率向上について、区役所関係課のプロジェクトチームで協力しながら、新型コロナウイルス感染症の現状に応じた受診率向上に向けた活動を引き続き行っていく。 ・地域包括ケアシステムの推進については、介護予防や在宅医療・介護に関する普及啓発を今後も公民館、地域団体とともに継続して実施する。 ・大学や歯科医師会との共創により「口腔ケア」を通じて介護予防の取組みを推進する。 ・定年後の新たなステージの応援の一環として「シニアのための智恵袋」を活用した地域活動への関心を高める情報提供を行うなど、地域の担い手確保に取り組む。
----	---

早良区の特性を生かした魅力あるまち

現状と課題	・早良区を代表する脊振山系や室見川などの豊かな自然を保全し、次世代へ引き継いでいく必要がある。 ・H24.5に地域の要望のもと誕生した「サザエさん通り」を生かしたまちづくりや、南部の“実りの秋”の魅力発信をする「さわらの秋」など、早良区の魅力を生かした地域活性化に取り組む必要がある。
今後	・脊振クリーンアップ登山をはじめとする脊振自然遺産事業や、室見川水系一斉清掃などの活動を通し、市民の環境保全意識の向上を図る。 ・「サザエさん通り」の認知度向上やさらなる地域活性化のため、H25nに策定した構想に基づき、ハード・ソフト両面からの施策の充実や広報の強化を官民共働で行う。 ・R2の長谷川町子さん（サザエさんの原作者）生誕100年に関連する記念事業を継続実施する。 ・「さわらの秋」事業をはじめとして、早良区の魅力について、区内外の住民への認知度を高めるための広報戦略や地域資源のブランド化に取り組む。

地域の魅力を生かしたまち

現状と課題	・早良区南部地域は豊かな自然や産業、歴史などの地域資源に恵まれる一方、少子高齢化や人口減少など、地域の活力低下が懸念されており、地域や行政が共創で南部地域の魅力を生かしたまちづくりを推進する必要がある。 ・早良区中南部地域における、区レベルの行政サービスを補完する施設として、R3に開館予定である早良南地域交流センターへの交通アクセスについて関係局と検討する必要がある。
今後	・NP0との共働事業提案制度を活用し、早良南部地域における交流人口拡大に向けた取組みを地域内外の市民や団体・企業と共に検討し、地域特性に応じた推進手法で実践していく。 ・地域、団体、行政等が一体となった早良南部地域の課題解決に向けた取組みである「早良みなみ塾」を通し、自治協間の連携強化、早良南部コミュニティの一体化、人材・資源の活用促進を図るとともに、地域の魅力を生かした地域主体の取組みを支援する。 ・中南部地域においては、早良南地域交流センターの整備進捗に応じ、地元への適切な情報提供や意見調整を行う。

自然と大学の知を生かし、安全で安心して、生き生きと暮らせるまち・西区
～「自然・市民・大学」の3つの宝を磨きあげる～

- 取組みの方向性
- 自然を生かし、環境にやさしいまち
 - にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち
 - 大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち
 - 子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数
H12	西区	26,932	(16.2%)	115,406	(69.3%)	24,275	(14.6%)	166,676
H17		28,347	(15.9%)	120,391	(67.3%)	30,026	(16.8%)	179,387
H22		30,181	(15.6%)	126,224	(65.4%)	36,540	(18.9%)	193,280
H27		31,405	(15.3%)	129,439	(63.0%)	44,772	(21.8%)	206,868
R1		30,995	(14.7%)	130,494	(61.8%)	49,678	(23.5%)	212,417
	全市	203,722	(13.0%)	1,010,561	(64.7%)	348,417	(22.3%)	1,592,657
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯	*R1人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)	
H12	西区	3,413	(5.5%)	16,385	(26.6%)	61,579		
H17		4,375	(6.4%)	19,213	(28.1%)	68,254		
H22		5,723	(7.3%)	25,157	(32.3%)	77,880		
H27		8,216	(9.3%)	32,347	(36.8%)	88,011		
	全市	80,032	(10.5%)	379,499	(49.7%)	763,824		

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

自然を生かし、環境にやさしいまち

現状と課題	・豊かな自然をもつ西区では、都市と自然の近接という特性を活かしたまちづくりが必要。 ・「西区環境フェスタ」は、市民（環境活動ボランティア団体）と企業等及び行政（西区役所等）が企画から運営まで協働し、開催している環境啓発イベントである。市民の環境に対する意識向上につながるとともに環境活動団体の活動の発表・評価の場を担っている。一方、地域での環境活動の活発化には、活動のリーダー的役割を担う人材が不可欠であるが、人材が固定化しており、若い世代が不足している。
今後	・「西区環境フェスタ」を継続して開催し、ひとりでも多くの市民が環境活動に興味を持てる場を提供するとともに、学生ボランティア等の若い世代の気づき・育成の場とする。 ・人材育成講座による新たな人材の発掘・育成を図るとともに、活動のノウハウ、情報提供等の支援などにより、自立した環境活動を促進する。

にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち

現状と課題	・校区や地域単位での夏祭りや地域カフェ等の開催、また地域デビュー応援事業等によって、様々な地域主体の取組みが行われているものの、住民自治意識やコミュニティへの帰属意識が希薄化し、地域活動への参加者減少・固定化が見られ、地域活動を担う人材が不足している。 ・市街化調整区域では、人口の減少や少子高齢化、公共交通機関の減少などの課題が顕著な地域もあり、地域の魅力を活かしたまちづくり活動の支援に取り組む必要がある。
-------	---

今後	・地域活動支援のための研修を実施するとともに、自治会等への加入率向上を図るため、自治会等の組織化や近隣自治会等への加入が進んでいない地域や集合住宅等に対し、加入促進の働きかけを行う。 ・市街化調整区域のまちづくりに関して、地域主体の取り組みを支援するとともに、SNSを活用した地域の魅力発信や、公共交通機関の利用促進のための「登山マップ」の定期的な配布等により、積極的に広報していく。
----	---

大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち

現状と課題	・地域と九州大学が直接、連携・交流できる仕組みや関係性が少しずつ構築されてきているが、さらに大学の知識と多彩な人材を地域の人材育成やまちづくりに活かすことが必要。 *九州大学と地域との連携・交流事業数 R1n：54 事業
今後	・公民館や自治協議会に、地域との交流を希望する九州大学の学生団体の情報を「九大と地域の便利帳」等を通じて発信し、大学生と地域との自主的な交流を促進する。 ・九州大学及び学生と地域とをつなぎ、地域の活性化に向けたまちづくりの取り組みを支援していく。

子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち

現状と課題	・全校区に自主防災組織が立ち上げられ、校区や地域において自主的な防災訓練が実施されている。自主防災組織が災害時に機能できる体制となるための一つとして、校区毎に防災計画が定められているが、その内容を実行性のあるものに見直していく必要がある。また、校区によって防災に対する意識に温度差がある。 ・R1における西区の犯罪認知件数は、1,498件と昨年に比べ83件の減となっているものの、人口増加の著しい地域では、自転車盗などの窃盗犯が多く発生している。そのため、地域の防犯意識の高揚や地域が主体的に行うパトロール活動など、犯罪が発生しにくい環境づくりの促進が必要である。 ・地域包括ケアの推進として、地域ケア会議を開催し、課題の抽出・共有とともに、医療・介護・地域等、関係機関とのネットワークを構築、また団体等の取組みを区全体で共有する「西区サミット」や、認知症・在宅介護について学ぶ「わがまちサミット」を開催しているが、校区の特性や、増加する認知症高齢者や複合的な問題を抱えた事例等への対応には、よりきめ細かな支援とともに、地域包括ケアシステムについて、市民等へのさらなる周知・啓発が必要である。 *R1n「西区サミット」参加者：222人 「わがまちサミット」参加者：413人 ・里親宅で子育て支援短期利用事業（子どもショートステイ）を利用することで、支援が必要な子どもたちが家庭的環境で過ごすことができるが、里親が不足している現状がある。「短期の里親」のなり手を増やすことが社会全体で子どもをはぐくむ地域づくりの醸成につながるため、里親に対する市民の理解を深め里親登録数を増やしていくことが必要である。
今後	・校区防災計画を具体的で実行性のあるものに見直すよう支援していくことや、引き続き校区自主防災組織連絡会や研修会を通じて、行政からの防災情報や他校区での取組み等を情報共有するとともに、校区防災計画に基づく訓練の実施を支援していくことにより、西区全体の地域防災力の向上に努めていく。 ・地域住民の安全で安心して暮らせるまちづくりを実現していくために、引き続き地域・警察・行政で情報共有を行うとともに、地域への防犯活動物資配布・青色回転灯パトロールカーの補助等の支援やニセ電話詐欺防止等の啓発活動に取り組んでいく。また、西区役所全庁用車（軽自動車）の青パト化を行い、外勤帰庁時（主に小学校の下校時）に青色回転灯を回し、地域住民の防犯意識の向上を図るとともに、街頭犯罪抑止を目指す。 ・地域包括ケアの推進に向け、引き続き、関係機関等との連携、健康づくり・介護予防、地域資源の把握・開拓等に取り組むとともに、HPやSNS等を活用し、地域包括ケアシステムについて周知・啓発を図り、市民の主体的な取組みの促進に繋げる。 ・SOS子どもの村と連携し、「里親って？カフェ」や広報啓発などで、里親への理解やなり手を増やす取組みを継続する。